

The logo for AGC, consisting of the letters 'AGC' in a bold, blue, sans-serif font. A small red square is positioned between the 'A' and 'G'.

Your Dreams, Our Challenge

Chemistry for a Blue Planet



AGC株式会社
化学品カンパニー 事業案内



Chemistry for a Blue Planet

AGC Chemicals

地球はきっと昔に戻りたい。でも、人類は、もう昔に戻りたくない。

地球と人類。お互いの望みを同時に叶えるには、どうすればいいのか。
この実に難しい課題の解決方法を、今人類は求められています。
そして、さまざまな産業の礎になっている化学分野が果たす役割は、
とても大きいのではないか。そう感じるのです。

安全、安心、快適。人類の幸福につながるそうした目標と、
環境への負荷を抑えるという目標。
どちらも犠牲にすることなく、化学のチカラで実現するために。
英知を結集して、人類の課題に答が出せるように。
AGC化学製品カンパニーは、次の100年を見つめて新たな挑戦へ。

私たちは化学の力を通じて、安全、安心、快適で、環境に優しい世の中を創造します。



ケミカルチェーン

塩水の電気分解を起点に広がる独自の「ケミカルチェーン」を事業基盤に。

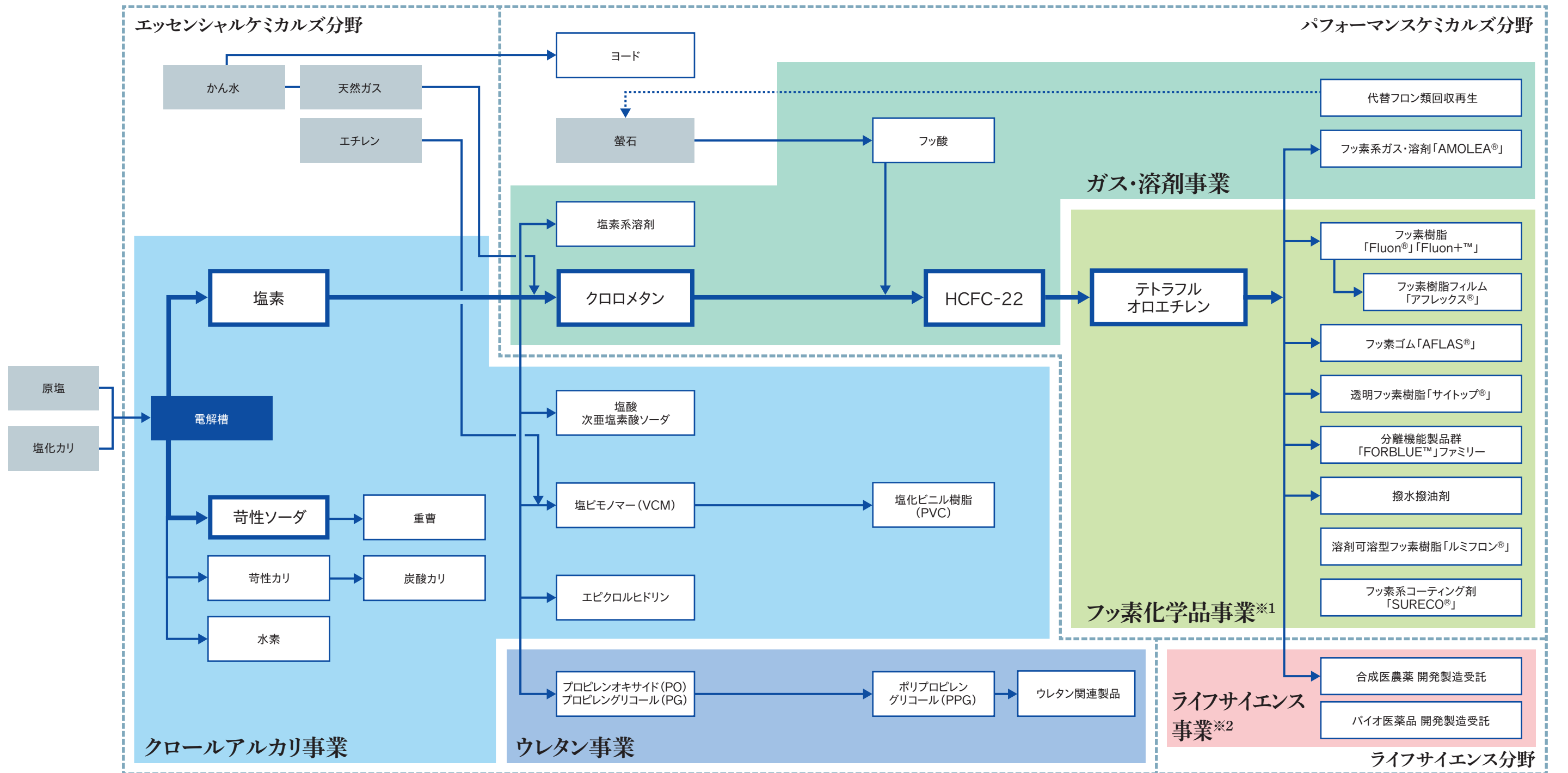
エッセンシャルケミカルズからパフォーマンスケミカルズまで高品質な化学品を一貫したラインで安定供給しています。

1917年、ガラスの原料であるソーダ灰の自給から始まった化学品事業は、100年以上の歴史のなかで、「クロールアルカリ」「ウレタン」「ガス・溶剤」「フッ素化学品」「ライフサイエンス」などの領域へと、事業の枝葉をどんどん伸ばし、やがて独自のケミカルチェーンを形成するようになりました。

化学品カンパニーのケミカルチェーンの独自性、それは塩水の電気分解を起点としたエッセンシャルケミカルズからパフォーマンスケミカルズという一貫したラインで製造していること。これにより、安全・

品質管理や、環境へのきめ細かな配慮をすべてのプロセスに行き届かせることができるようになりました。その結果、化学品事業は、さまざまな分野で世界トップレベルの製品を生み出し、私たちの暮らしや社会に豊かさをもたらし、さまざまな産業の発展を支えています。

ここでは、独自のケミカルチェーンの全体像を示し、次ページで化学品カンパニーの100年を超えるあゆみを俯瞰します。



※1 一部フッ素を原料としない製品を含む ※2 2023年よりライフサイエンスカンパニーとして独立

沿革

ソーダ灰の自社生産を起点に、 事業領域を拡大してきた化学品事業のこれまで。

流れゆく時代とともに、変化する暮らしや社会、市場と向かい合い
時代が求める化学品を開発・供給してきた私たちのあゆみ。

社会の動向	1914 第一次世界大戦勃発 (18年まで) 1920 国際連盟発足	1929 世界大恐慌の開始	1939 第二次世界大戦勃発 (45年まで)	1945 国際連合発足 1947 東西冷戦の開始 1950 朝鮮戦争勃発	1952 欧州石炭鉄鋼共同体設立 (後の欧州連合)	1962 キューバ危機 1964 ベトナム戦争勃発 (75年まで) 1967 東南アジア諸国連合(ASEAN)設立
環境の歴史	1969 メチル水銀化合物の水銀規制開始 (水俣病の社会問題化)					

年代	1910s	1920s	1930s	1940s	1950s	1960s
----	-------	-------	-------	-------	-------	-------

1907 旭硝子創立

ソーダ灰事業

1917 牧山工場にアンモニア法ソーダ灰工場が完成し、製造を開始(写真①)

1921 菱印の商標でソーダ灰の市販を開始

1929 局方重曹の製造を開始(写真②)

1930 牧山工場の重曹生成作業を新設のソルバー塔に切り替え

1950 牧山工場で塩安ソーダ併産法への転換を進め肥料用塩安の本格製造を開始

1959 千葉工場を建設。塩安ソーダ併産法によるソーダ灰製造を開始

1966 ア法ソーダの製造終了

クロールアルカリ事業

ウレタン事業

1933 牧山工場でアンモニアソーダ法による苛性ソーダ(ア法ソーダ)製造を開始

1942 大阪晒粉社を吸収合併。電解ソーダ(水銀法)を製造する淀川工場を設置

1943 牧山工場で炭酸カリ製造開始

1952 インドネシアと電解苛性ソーダプラント輸出契約を締結(1956年プラント完成)

1958 千葉天然ガスの本格開発開始(1959年輸送パイプライン完成)

1961 淀川工場でプロピレンオキシド、プロピレングリコールの製造開始

1965 タイ旭苛性曹達発足

1966 塩ビモノマーの製造で旭ペンケミカルを米PPG社などと設立(写真③)

1968 鹿島電解、鹿島塩ビモノマーの設立に参加



① 北九州の牧山工場全景



② ソーダ灰(左)と重曹(右)



③ 旭ペンケミカル



④ 千葉工場のフロンプラント



⑤ 千葉工場の「アフロンCOP」プラント



⑥ 鹿島電解のAZECシステム



⑦ 「EPA成層圏オゾン層保護貢献賞」の受賞楯と「アサヒクリンAK-225」



⑧ 化学品事業100周年



⑨ テクニカルサービスセンター(オランダ)



⑩ AGCピニタイのプラント

フッ素化学品事業

1962 フッ素樹脂の研究を開始

1966 フッ素樹脂原料のフロン22製造開始

ガス・溶剤事業

1964 フロン11、フロン12の製造を開始

1965 フロン22の生産を開始

1968 フロン113・114・115のパイロットプラントが完成(写真④)

ライフサイエンス事業

1973 第一次石油危機 (第四次中東戦争)
1979 第二次石油危機(イラン革命)
1987 世界的株価大暴落 (ブラックマンデー)
1989 冷戦終結
1993 欧州連合創設(99年ユーロ導入)
1997 アジア通貨危機
2001 対米同時多発テロ事件発生
2008 リーマンショック発生
2011 東日本大震災発生
2020 新型コロナウイルス感染症発生

1987 モントリオール議定書採択 (フロン規制)
1997 京都議定書採択
2008 化学品事業ビジョン 「Chemistry for a Blue Planet」 制定
2015 パリ協定採択
2016 モントリオール議定書キガリ改正採択 (温室効果係数の高い代替フロン規制)

1970s

1980s

1990s

2000s

2010s

2020s

1990 テネコ・ソーダ・アッシュ・ジョイントベンチャーをテネコ社と設立し、米国で天然灰生産を開始

1997 千葉工場でソーダ灰製造終了

2001 北九州工場でソーダ灰製造終了。ソーダ灰生産84年の歴史に幕を下ろした
2007 ソーダ灰の国内販売から撤退

2017 化学品事業100周年(写真⑧)

1974 米オーリン社とウレタン原料製造会社の旭オーリンを設立

1975 「フレミオン」使用のイオン交換膜法苛性ソーダ電解の技術開発に成功

1980 イオン交換膜法による新電解技術「AZECシステム」開発(写真⑥)

1986 インドネシアのロダマス社、スペントラ社および米PPG社ほかとアサヒマス・スペントラ・ケミカル設立

1993 塩ビモノマー製造会社の京葉モノマー設立

1996 関西工場での化学品製造停止

2000 関西クロールアルカリの電解プラント停止・解散

2002 北九州工場での化学品製造停止

2004 重曹自主回収事件

2012 鹿島電解、鹿島塩ビモノマーからの離脱

2014 ベトナムの塩ビ製造会社フォーミー・プラスチック・アンド・ケミカルズ社(※2)を買収

2017 タイのクロールアルカリ・塩ビ製造会社ビニタイ社を買収

2022 クロールアルカリ事業子会社を再編し、AGCビニタイ設立(写真⑩)

タイにおけるクロールアルカリ製品の能力増強を決定

1971 撥水撥油剤「アサヒガード」開発

1971 米アライド・ケミカル社からフッ素樹脂製造技術導入

1972 ETFEフッ素樹脂「アフロンCOP」開発(写真⑤)

1973 TFEモノマーの製造を開始

1973 フッ素ゴム「アフラス」販売開始

1976 フッ素樹脂フィルム「アフレックス」販売開始

1981 PTFEの生産会社旭アイシーアイフロロポリマーズを英ICI社と設立

1982 溶剤可溶型フッ素樹脂「ルミフロン」販売開始

1988 透明フッ素樹脂「サイトップ」開発

1999 旭アイシーアイフロロポリマーズの英ICI社株を買取り100%化。英ICI社のフッ素樹脂事業を買収し英国と米国で事業開始

2000 フッ素化合物製造の新製法「PERFECT」法を開発

2001 フッ素樹脂のブランドを「Fluon」に統一

2006 環境適合型新品種「アサヒガードEシリーズ」販売開始

2007 英国でETFEの海外生産を開始



2016 欧米・中国に続き、シンガポールにテクニカルサービスセンターを開業開始(写真⑨)

2017 分離機能製品群「FORBLUE」ファミリーを新規立ちあげ

2018 フッ素の特性にさらなる機能を加えた「Fluon+」シリーズ発表



2023 千葉工場におけるフッ素製品の能力増強を決定

2024 グリーン水素製造に適したフッ素系イオン交換膜 FORBLUE Sシリーズの製造設備を北九州市に新設決定

1972 六フッ化硫黄(SF₆)を製造開始

1975 フロン113製造開始

1982 フロン114・115の製造を開始

1987 代替フロン開発のプロジェクトチーム結成

1991 代替フロン「アサヒクリンAK-225」の製造を開始(写真⑦)

1997 米アライド・シグナル社と混合冷媒事業に特化した旭アライド・シグナルを設立



2014 空調機器向け次世代冷媒「AMOLEA」を開発

2015 千葉工場に次世代自動車用冷媒HFO-1234yf製造設備完成

2018 環境対応型新フッ素系溶剤「AMOLEA AS-300」の販売開始

2020 千葉工場に次世代低圧冷媒「AMOLEA 1224yd」製造設備完成

1973 市場調査、戦略立案を担う「ライフサイエンスチーム」を設置

1985 含フッ素医薬品中間体の受託製造を開始

1990 活性型ビタミンD3製造販売が厚生省認可。初の医薬品原体製造販売

1998 医薬品中間体・原体製造の若狭エイ・ジー・シー・ファインケミカル(※1)を設立

2000 中央研究所にバイオ医薬品受託製造設備を設置

2003 千葉工場にGMP対応プラント完成

2008 参天製薬と共同開発の緑内障薬原体「タフルプロスト」製造販売承認

2008 千葉工場に大型バイオ医薬品製造プラント建設

2016 欧州のバイオ医薬品CMO バイオミーバ社(※3)を買収

2017 欧米の大手バイオ医薬品原薬CDMO CMCバイオリジクス社(※4)を買収

2019 スペイン合成医薬品原薬製造会社マルグラット・ファーマ・ケミカルズ社(※5)を買収

2020 遺伝子・細胞治療薬CDMO モルメド社(※6)を買収

2020 アストラゼネカ社より米国のバイオ医薬品原薬工場(※7)を買収

2021 ノバルティス・ジーン・セラピーズ社より米国の遺伝子治療薬工場(※8)の買収

2023 ライフサイエンスカンパニーが化学品カンパニーから独立

AGC横浜テクニカルセンターにおけるバイオ医薬品CDMOの開発・製造能力拡大を決定

※1 現 AGC若狭化学 ※2 現 AGCケミカルズ・ベトナム ※3 現AGCバイオリジクス ハイデルベルク拠点 ※4 現AGCバイオリジクス シアトル・コペンハーゲン拠点 ※5 現AGCファーマケミカルズヨーロッパ ※6 現AGCバイオリジクス ミラノ拠点 ※7 現AGCバイオリジクス ボルダール拠点 ※8 現AGCバイオリジクス ロングモント拠点

事業領域

「エッセンシャルケミカルズ」 「パフォーマンスケミカルズ」の 2つの領域で事業を展開。

「クロールアルカリ」「ウレタン」「フッ素化学品」「ガス・溶剤」。

4つの事業を通じて、暮らしや社会に豊かさをもたらす多彩な化学品を提供しています。

エッセンシャルケミカルズ

クロールアルカリ事業

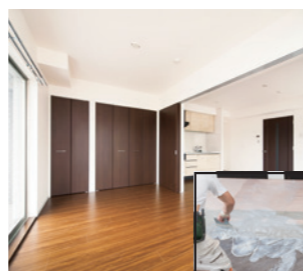
塩水の電気分解により製造される「苛性ソーダ」や「塩素」を中心とするクロールアルカリ製品を取り扱っています。「苛性ソーダ」や「塩素」は、各種化学製品の基礎原料として使われるほか、さまざまな産業分野でも幅広く使用されています。クロールアルカリ事業は、日本国内で高いシェアを有しているだけでなく、1960年代にタイ、1980年代にはインドネシアへと、早期に電解工場の国際展開を進め、東南アジアにおいても高いプレゼンスを発揮。さらに、近年の東南アジア市場の需要拡大に対応し、2014年にはベトナムの有力な塩ビメーカー、2017年にはタイの上場企業ビニタイ社(当時)を傘下に収めるほか、同地域での能力増強を推進するなど、東南アジアNo.1電解メーカーとして地域の発展に貢献しています。



ウレタン事業

プロピレンオキシド(PO)を基礎原料として、ウレタン製品などに用いられるポリエーテルポリオールを製造・販売。ウレタンフォーム、エラストマー、接着・シーリング材など、さまざまな用途に最適なソリューションを提供しています。

ウレタン製品の主原料であるポリプロピレングリコール(PPG)を、その原料であるPOから一貫生産しており、不純物の少ない高品質なPPGを安定供給。PPGの応用展開として、プレポリマー、変成シリコンポリマーなどの製品も製造・販売しています。また、断熱材に用いられるウレタンフォーム、コーティング、接着剤、シーリング材、エラストマーなど、幅広い用途のウレタン製品向けに原料を供給しており、独自の触媒設計技術を活かして、お客様の求める性能を発現するポリマーの開発にも対応しています。



パフォーマンスケミカルズ

フッ素化学品事業

半導体・自動車・エネルギー・建築など、幅広い産業分野で使用される「フッ素化学製品」を取り扱っています。世界トップシェアのETFEをはじめとした自動車・航空機産業で要求される耐熱性・耐薬品性を達成するフッ素樹脂・ゴム・コンパウンドや、高い意匠性を実現する建築向け膜構造用フッ素樹脂フィルム、橋梁やタワーなどのランドマークに採用されている高耐候性の溶剤可溶型フッ素樹脂など、幅広い品揃えでお客様のご要望に応じた最適なソリューションを提供しています。

また、グローバルマーケットにおけるさまざまな産業用途での需要拡大に合わせて、世界各地のテクニカルサービス拠点より、当社のフッ素化学製品をお使いいただくための高度で迅速な技術サポートを提供しています。



ガス・溶剤事業

空調・冷凍冷蔵分野で使われる「冷媒」や産業用洗剤・熱媒・コーティング分野などで使われる「溶剤」を取り扱っています。

オゾン層破壊や地球温暖化・気候変動問題など地球規模の環境問題の顕在化を背景に定められた環境規制に対応する各種代替フロンを開発・提供しています。また、これまでの規制対応のなかで培ってきたノウハウを活かして、HFCに代わる、より地球温暖化係数の低い冷媒・溶剤の開発を進めるなど、地球環境に優しい製品の創出に努めています。

また、溶剤分野では、「不燃性で安全に使用できる溶剤」をコンセプトに、熱安定性が高く精密洗浄や各種溶媒・熱媒体に使用されるフッ素系溶剤や、溶解力が高く金属製品の脱脂洗浄などに適した塩素系溶剤を提供しています。



ライフサイエンスカンパニー (2023年より化学品カンパニーから独立)

医薬品・農薬のプロセス開発・製造受託を担うCDMO(Contract Development & Manufacturing Organization)事業をグローバル展開しています。パフォーマンスケミカルズ事業で培った有機合成技術をベースとした合成医薬品・農薬はもとより、世界的に需要拡大が進むバイオ医薬品や最先端分野である遺伝子・細胞治療薬にも注力しています。

AGCは、CDMO事業を中心としたライフサイエンス事業を戦略事業と定め、積極的なM&Aや能力増強により、地域・技術分野を拡大してきました。2023年には同事業を化学品カンパニーから分離して独立した社内カンパニーを新設し、更なる事業拡大を目指しています。

日欧米の世界3極の事業拠点から、各市場のお客様の多様なニーズに応える高品質のサービスを通じて、世界の人々の安心・安全で快適・健康な暮らしに貢献していきます。

詳細は以下WEBサイトをご覧ください。

https://www.agc.com/products/lifescience/lifescience_company/index.html



ビジネスフィールド

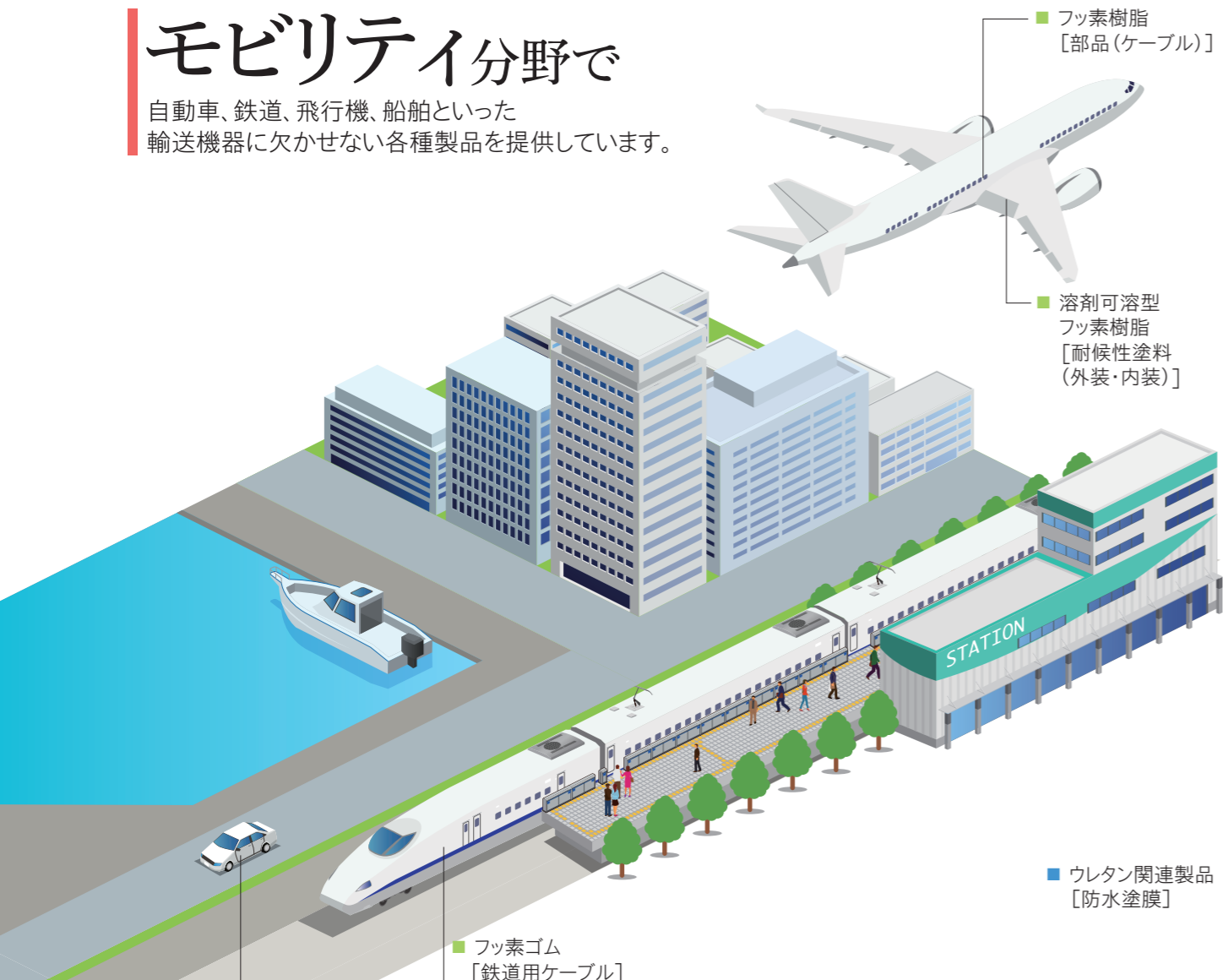
さまざまな場所で、さまざまなシーンで。
安心・安全・快適で、持続可能な社会を支えています。

モビリティから、建築・社会インフラ、環境・エネルギー、農業・医療、生活関連まで暮らしや産業・社会を支える化学品を幅広く提供しています。

- クロールアルカリ ■ ウレタン ■ ガス・溶剤 ■ フッ素化学品*1 ■ ライフサイエンス*2 ■ その他
- ※1 一部、フッ素を原料としない製品を含む ※2 2023年よりライフサイエンスカンパニーとして独立

モビリティ分野で

自動車、鉄道、飛行機、船舶といった輸送機器に欠かせない各種製品を提供しています。



■ フッ素樹脂 [部品(ケーブル)]

■ 溶剤可溶型フッ素樹脂 [耐候性塗料(外装・内装)]

■ フッ素ゴム [鉄道用ケーブル]

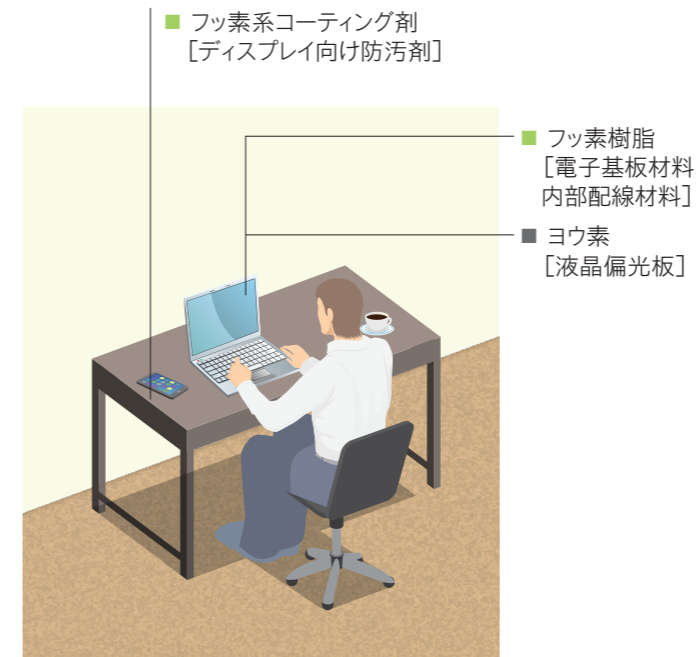
- ウレタン関連製品 [自動車シート、接着剤(内装・フロントガラスなど)]
- フッ素樹脂・フッ素ゴム [部品(ケーブル・ホースなど)]
- 塩化ビニル樹脂 [部品(ケーブル)、防水防錆塗料など]
- 撥水撥油剤 [部品、内装]
- フッ素系冷媒 [環境対応型カーエアコン向け冷媒]
- フッ素系溶剤 [メンテナンス用クリーナー]

建築・社会インフラ分野で

建築材料や社会インフラを支える工業用素材などを提供しています。

■ ウレタン関連製品 [防水塗膜]

■ 重曹 [排ガス処理剤]

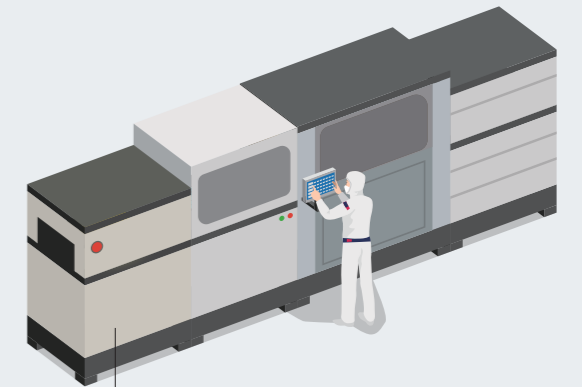


■ フッ素系コーティング剤 [ディスプレイ向け防汚剤]

■ フッ素樹脂 [電子基板材料 内部配線材料]

■ ヨウ素 [液晶偏光板]

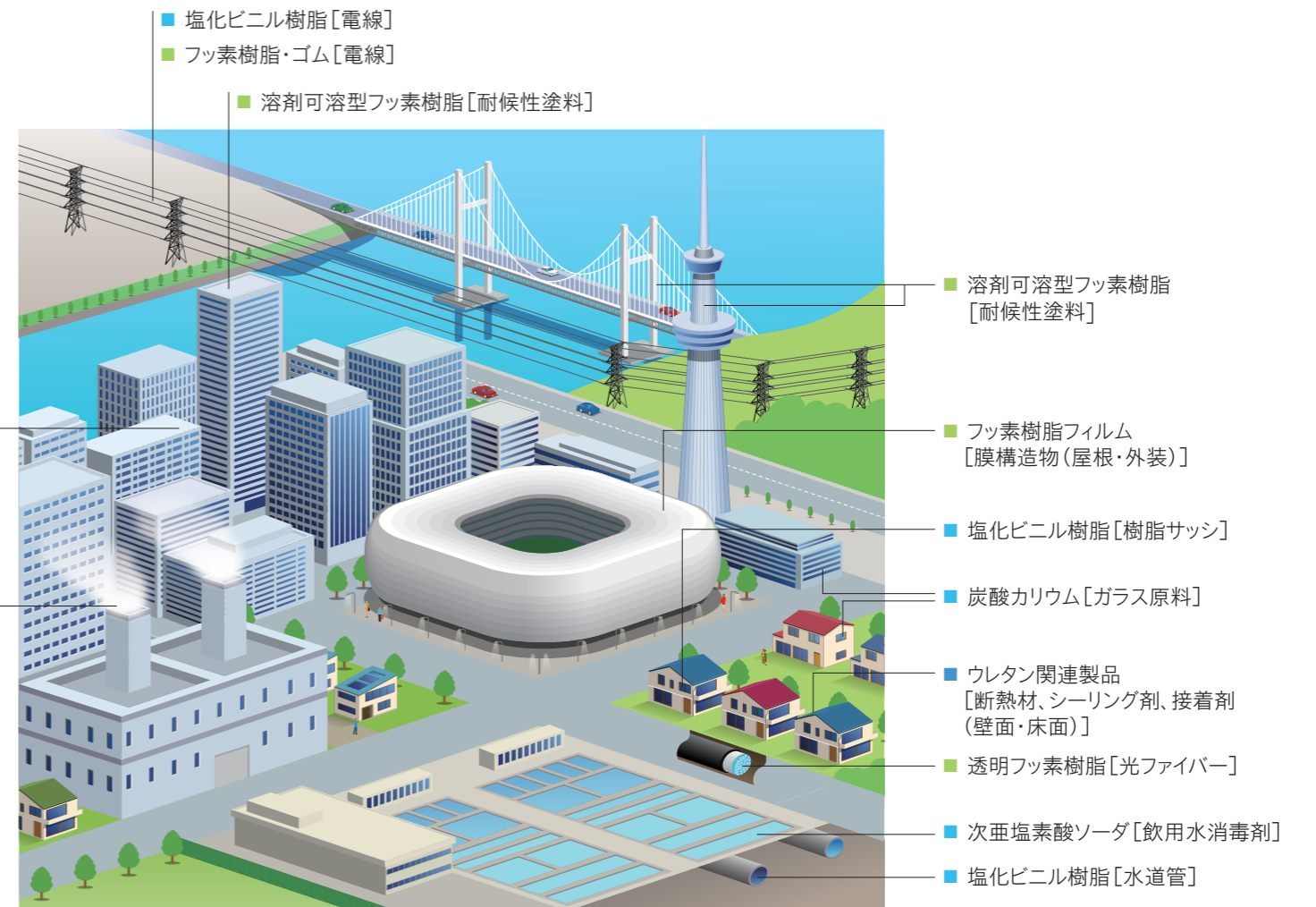
半導体の製造工程



- フッ素樹脂・ゴム [半導体製造装置部材]
- フッ素樹脂フィルム [半導体製造工程における離型フィルム]

エレクトロニクス分野で

ディスプレイ・電子機器などの素材・部材を提供しています。



- 塩化ビニル樹脂 [電線]
- フッ素樹脂・ゴム [電線]

■ 溶剤可溶型フッ素樹脂 [耐候性塗料]

■ 溶剤可溶型フッ素樹脂 [耐候性塗料]

■ フッ素樹脂フィルム [膜構造物(屋根・外装)]

■ 塩化ビニル樹脂 [樹脂サッシ]

■ 炭酸カリウム [ガラス原料]

■ ウレタン関連製品 [断熱材、シーリング剤、接着剤(壁面・床面)]

■ 透明フッ素樹脂 [光ファイバー]

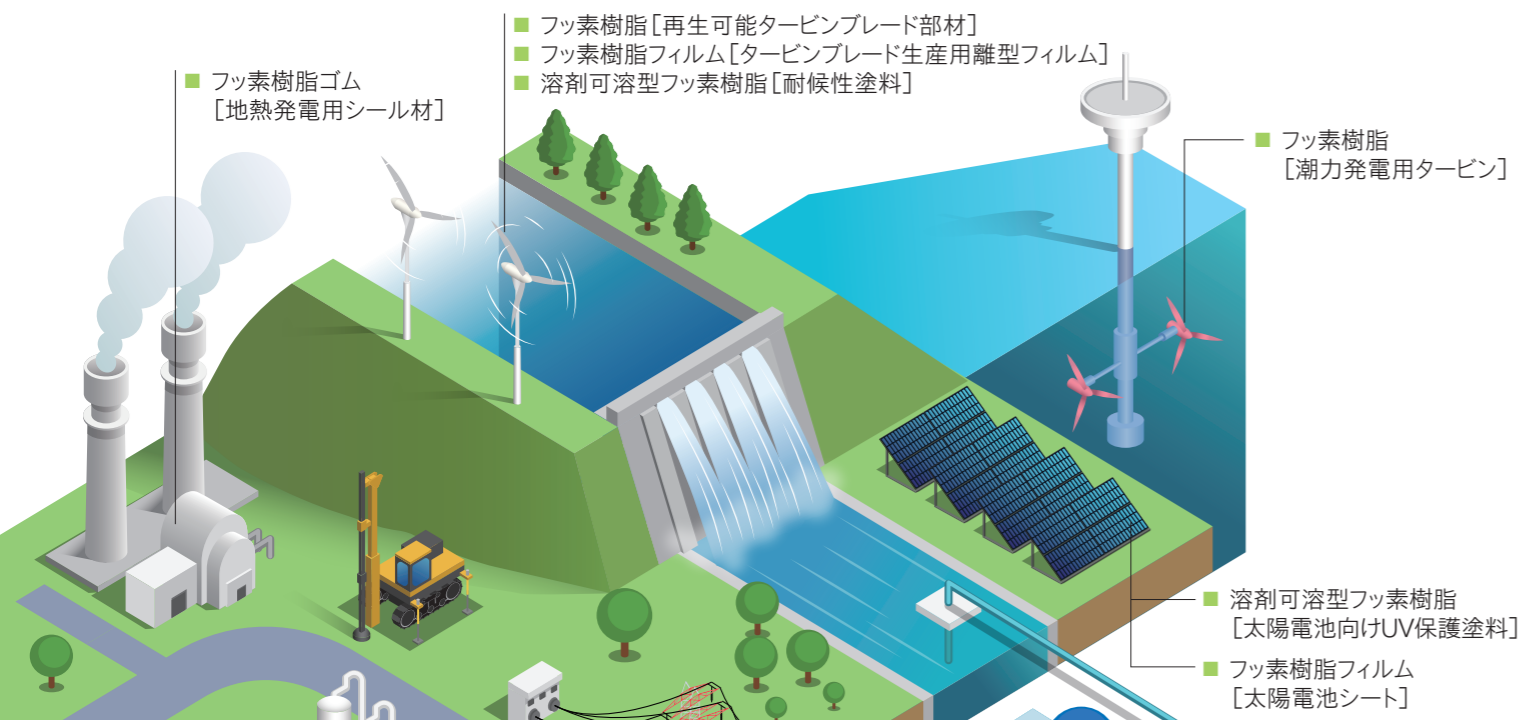
■ 次亜塩素酸ソーダ [飲用水消毒剤]

■ 塩化ビニル樹脂 [水道管]

環境分野で

再生可能エネルギー普及や水素社会の実現に貢献する部材を提供しています。

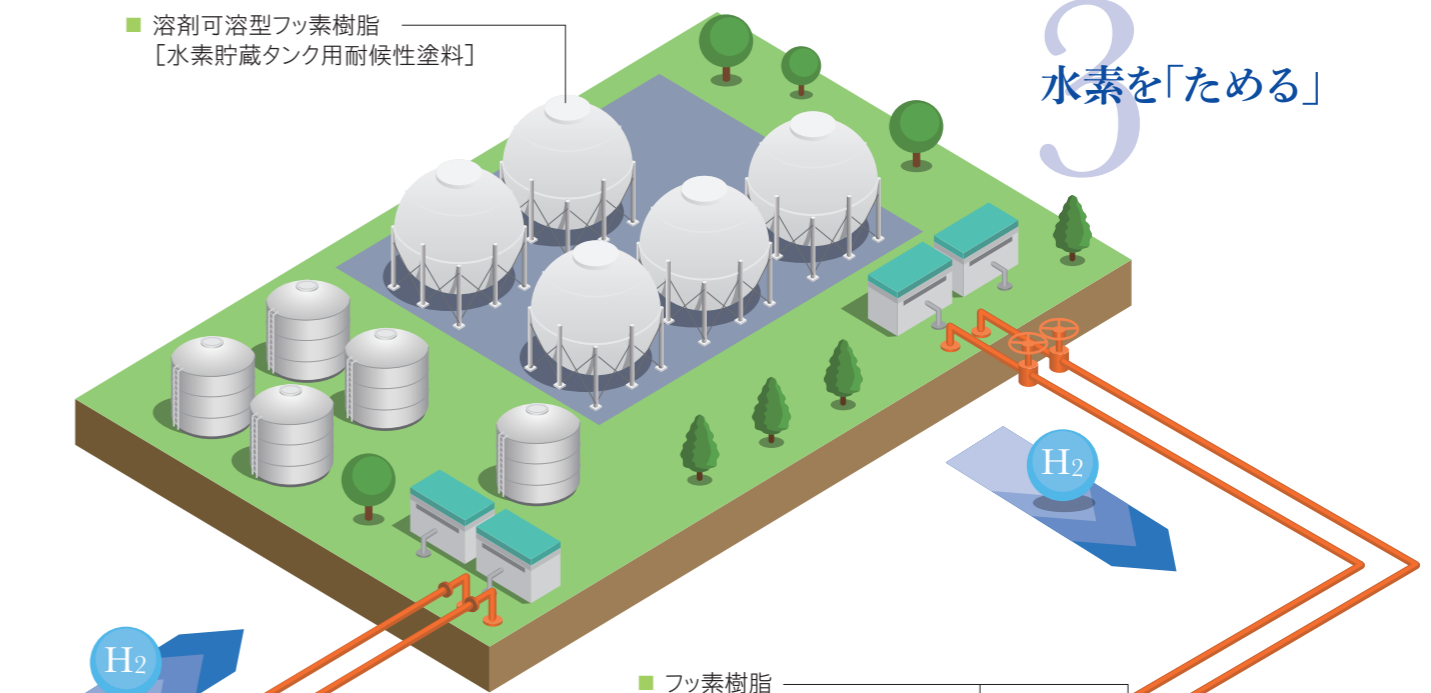
1 再生可能エネルギーの生成



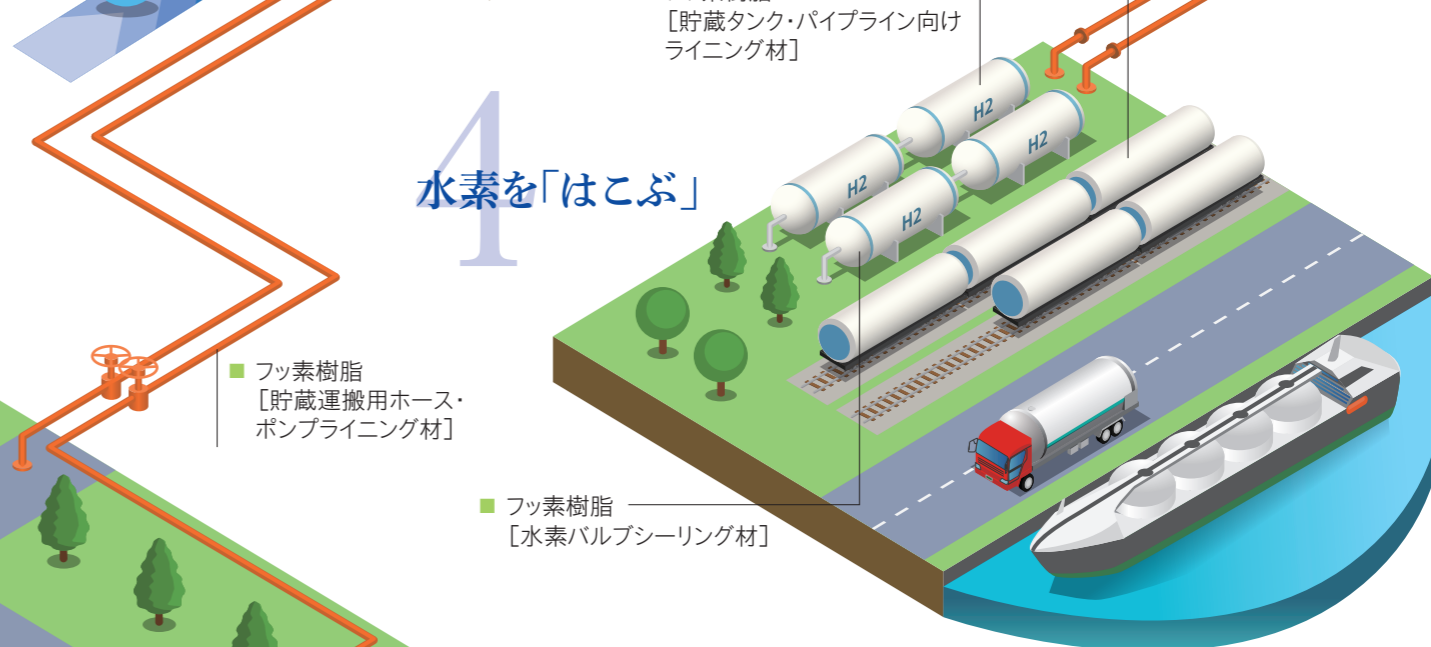
2 水素を「つくる」

- フッ素樹脂フィルム [触媒層製造用剥離フィルム]
- イオン交換膜 [水素製造プロセス(水電解)]
- 電解質ポリマー分散液 [水素製造プロセス(水電解・電極用バインダー)]

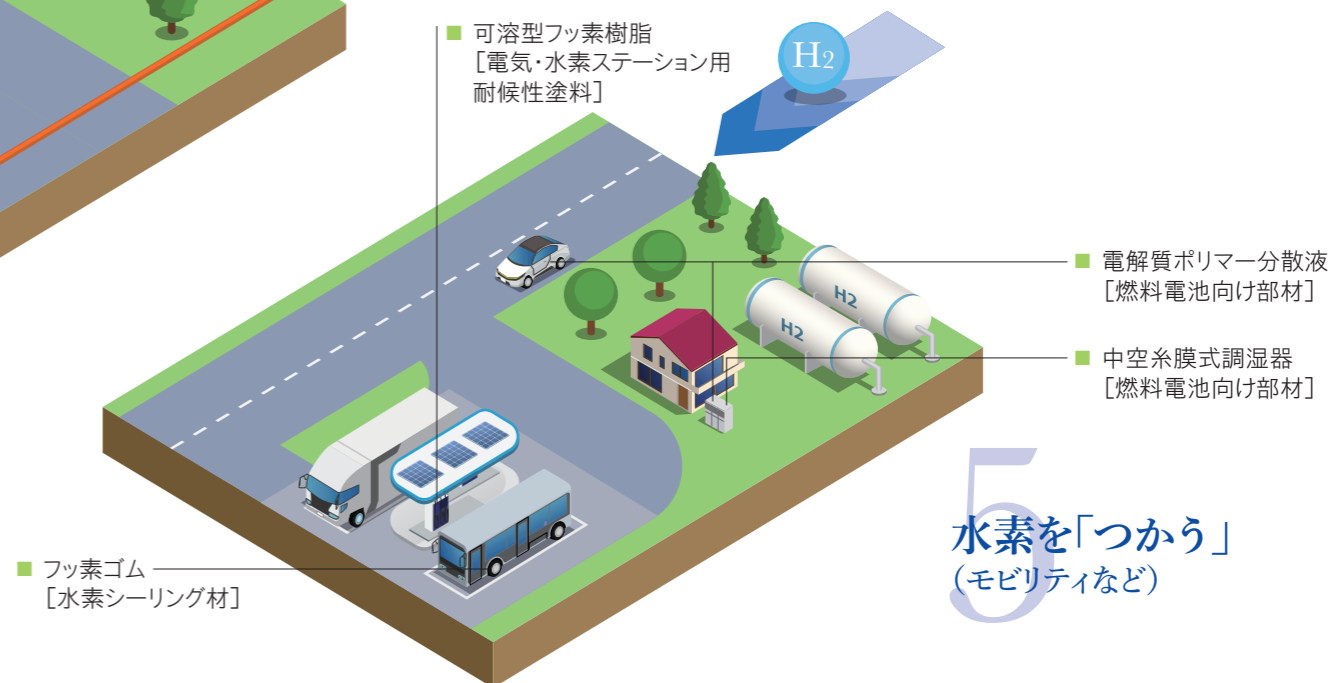
3 水素を「ためる」



4 水素を「はこぶ」

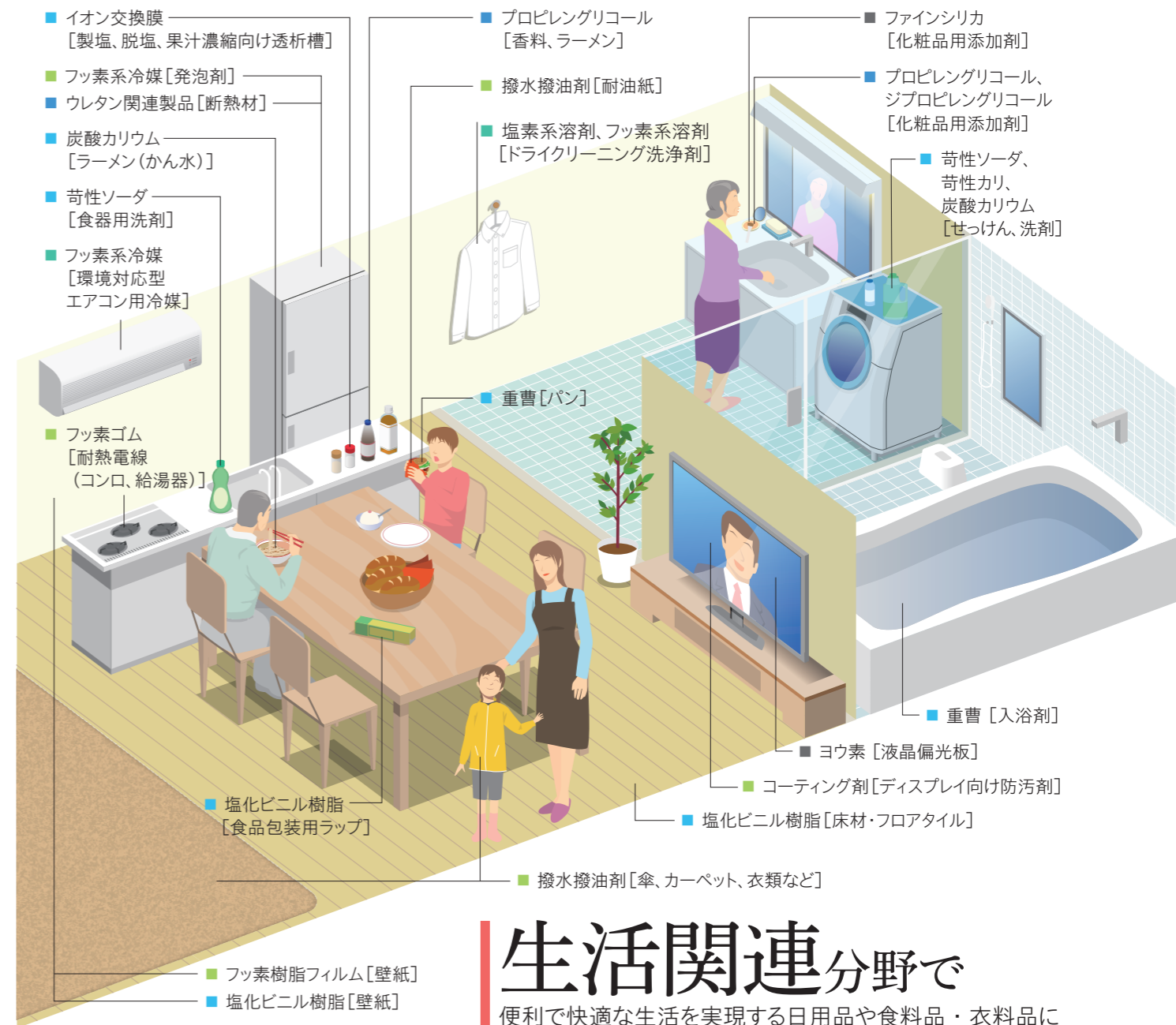
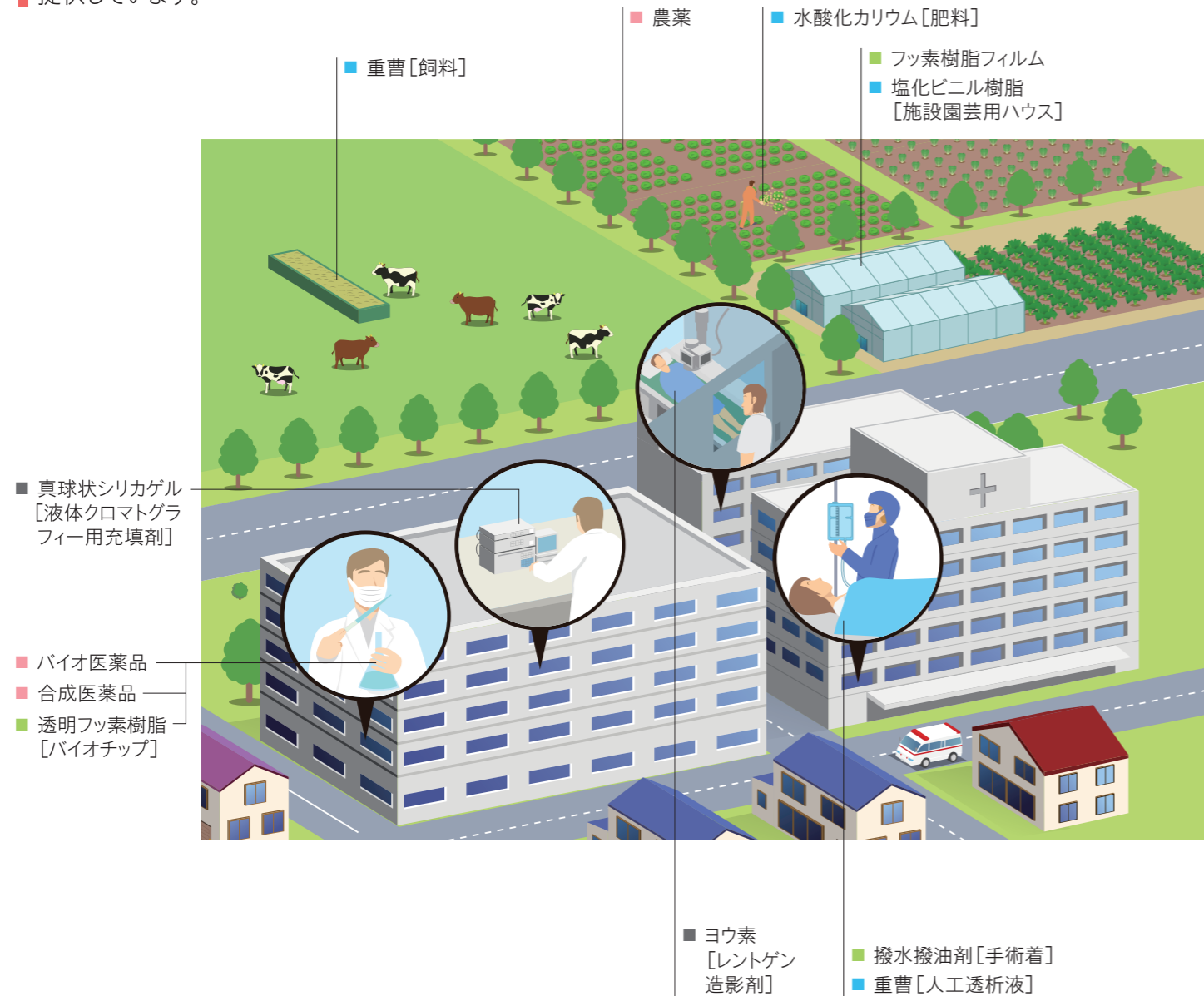


5 水素を「つかう」 (モビリティなど)



農業・医療分野で

農業や医療を支える様々な素材とサービスを提供しています。



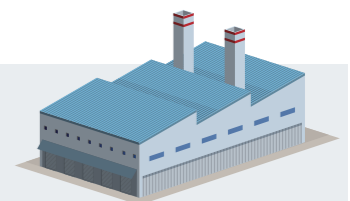
生活関連分野で

便利で快適な生活を実現する日用品や食料品・衣料品に欠かせない各種素材を提供しています。

製造工程で使用される製品

化学品事業の製品は、各種業界の製造工程においてさまざまな用途で使用されています。

	一般名	用途
クローラルカリ	苛性ソーダ	製紙・アルミニウム製錬工程における原材料の溶解用途、排水処理における中和用途など
	塩酸	電解コンデンサー製造工程のエッチング用途、排水処理における中和処理用途など
	重曹	機械部品の塗膜剥離、油分・スケール除去などのプラスト用途、工場排ガス処理用途など
ウレタン	プロピレングリコール	食品製造工程におけるブライン (間接冷媒) 用途など
ガス・溶剤	フッ素系・塩素系溶剤	金属・樹脂部品・プリント基板洗浄、シリコン・フッ素系オイル希釈溶媒、ドライクリーニング溶剤など
	フッ素系冷媒	化学プラント、地熱発電等で利用される大規模冷凍機の冷媒用途



	一般名	用途
フッ素化学品	フッ素系イオン交換膜	塩水の電気分解用途 (苛性ソーダ・塩素製造用)、水の電気分解用途 (水素製造用)
	フッ素樹脂フィルム	半導体製造工程における離型フィルム用途、触媒膜造工用剥離フィルム用途
	イオン交換膜	食品・調味液脱塩、工程排水脱塩再利用、酸回収用途など
	コーティング材	金型等の離型剤用途
	フッ素樹脂・フッ素ゴム	タンク、配管、ポンプ等のライニング、シール用途、半導体装置材料
その他	MSゲル	液体クロマトグラフィー用充填剤

主要取り扱い製品一覧

■クロールアルカリ事業 主要取り扱い製品

一般名「製品名」	製品用途
苛性ソーダ	排水中和、排煙脱硫、漂白、食品工業用、化学繊維・紙・パルプ・せっけんなどの製造
苛性カリ	各種カリ塩類の製造、軟せっけん、石油化学、光学ガラス用
炭酸カリ	ガラス(ブラウン管、光学ガラスなど)、せっけん、かん水、写真用、カリウム塩の製造など
塩酸	化学薬品原料、めっきの前処理、エッチングなど
次亜塩素酸ソーダ	上下水道の消毒殺菌、カビ取り剤、紙・パルプ・繊維などの漂白
液体塩素	紙・パルプの漂白、上下水道の消毒殺菌、化学薬品原料
塩化ビニルモノマー／塩化ビニルポリマー	塩化ビニル樹脂原料(VCM)／塩化ビニル樹脂(PVC)
エピクロロヒドリン	エポキシ樹脂原料
重曹 微粉重曹「アクレシア®」 プラスト洗浄剤「エコブラスト」	医薬品(人工透析、制酸剤)、食品添加物(膨張剤、飲料添加剤)、入浴剤、家庭用洗剤、化学薬品原料、飼料、水溶性プラスト洗浄メディア、排ガス処理用中和剤、消火薬剤

■ウレタン事業 主要取り扱い製品

一般名「製品名」	製品用途
プロピレンオキサイド(PO)	プロピレングリコール、ジプロピレングリコールおよびポリオールの原料、非イオン系界面活性剤の原料
プロピレングリコール(PG)	化粧品、香料、不飽和ポリエステル樹脂、保湿剤、不凍液、ブライン、食品添加剤、医薬品
ジプロピレングリコール(DPG)	化粧品、香料、不飽和ポリエステル原料、湿潤剤、溶剤、作動油、不凍液、印刷インキ
ポリオール「エクセノール®」	軟質・硬質ウレタンフォーム、コーティング、接着剤、エラストマー、防水材
高純度・高分子量ポリオール「プレミノール®」	体圧分散フォーム、振動吸収フォーム、弾性接着剤、シーラント
ウレタンプレポリマー「ユーファイン® L」	接着剤、アウトドア衣料素材
変成シリコーン「エクセスター®」	弾性接着剤(建築分野・自動車分野など)
機能性油剤「エクセノール®」	界面活性剤(繊維処理など)、トナーバインダー、生分解性潤滑油、冷凍機油など

■クロールアルカリ事業 ピックアップ製品

苛性ソーダ

苛性ソーダは塩の分電気分解によって得られる代表的な強アルカリの製品で、化学繊維、紙、パルプ、化学薬品、食品工業、石鹼など幅広い用途に使用されています。AGCグループでは安定供給を通じてお客様や社会に貢献します。



塩化ビニルモノマー／ポリマー

塩化ビニルポリマー(PVC)は加熱によって軟化する性質を持った汎用プラスチック原料で、水道管、建材といった基礎産業から最先端のエレクトロニクスまでさまざまな分野で利用されています。

AGCグループではその原料である塩化ビニルモノマー(VCM)も製造・販売しています。



エピクロロヒドリン

エピクロロヒドリンはエポキシ基と塩素基を持つモノマーであり、その高い反応性からエポキシ樹脂など様々な工業製品の原料に利用されます。鹿島ケミカル(株)とAGC Vinythai(タイ)の二拠点で製造しており、タイ品は「epinity」ブランドとして全世界で認知されています。



重曹

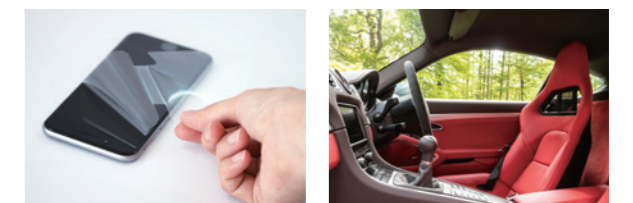
安全でマイルドなアルカリ物質として、重曹は身近な生活用品や食品、また生命に関わる医療用途、酸性ガスの中和剤等、幅広い用途で活用されています。AGCは重曹国内最大手メーカーとして徹底した安全、品質管理のもと、市場に即した製品づくりに取り組んでいます。



■ウレタン事業 ピックアップ製品

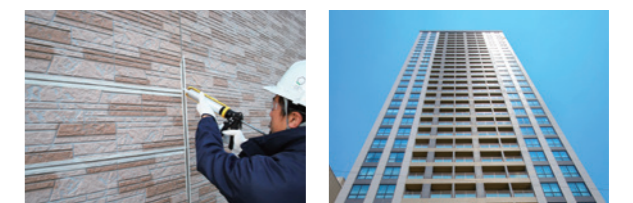
ポリオール「エクセノール® / プレミノール®」

水酸基を持ったポリエーテルでウレタンフォーム、エラストマー、接着剤などの原料に使用されています。汎用用途向「エクセノール」及び、独自の触媒技術による不純物の少ない高機能品である「プレミノール」を展開しており、使用目的に応じたソリューションを提供しています。



変成シリコーン「エクセスター®」

高機能ポリオール「プレミノール」の技術をベースとして開発された末端に加水分解性シリル基を有する湿気硬化性変成シリコーンです。触媒の存在下、湿気により硬化し柔軟な弾性体となります。主にシーリング材・接着剤の基材用途で採用されており、要求特性に応じた商品展開を行っています。



主要取り扱い製品一覧

■フッ素化学品事業※ 主要取り扱い製品

一般名「製品名」	製品用途
フッ素樹脂「Fluon® ETFE」 「Fluon® PTFE」 「Fluon® PFA」 「Fluon+™」	電線の被覆材、フィルム、チューブ、フィラメント、ライニング・シール材など
フッ素ゴム「AFLAS® FFKM」 「AFLAS® FEPM」	電線の被覆材、半導体製造工程のシール材など
フッ素樹脂フィルム「アフレックス®」	離型フィルム、建築用屋根・外装材、壁紙、太陽電池保護材など
施設園芸用フッ素樹脂フィルム「エフクリーン®」	温室の被覆材
透明フッ素樹脂「サイトップ®」	反射防止コート、ベリクル、絶縁膜、その他半導体・オプトエレクトロニクス関連材料
溶剤可溶型フッ素樹脂「ルミフロム®」	建物外装、橋梁、プラント、航空機などの高耐久塗装
撥水撥油剤	衣料、インテリアを含む各種繊維製品、各種紙製品などの撥水・撥油処理
フッ素系コーティング剤「SURECO®」	防湿・防水コート、摩耗耐久・防汚剤
機能性高分子モノマー「クロロメチルスチレン」	シランカップリング剤、イオン交換膜
分離機能製品群「FORBLUE™」ファミリー 食塩電解用フッ素系イオン交換膜「フレミオン®」 各種電解向けフッ素系イオン交換膜「Sシリーズ」 炭化水素系イオン交換膜(膜、透析槽)「セレミオン®」 中空糸膜式調湿器「サンセップ®」 燃料電池用電解質ポリマー分散液「iシリーズ」	食塩電解用隔膜 水電解を含む各種電解用隔膜 酸回収装置、電気透析脱塩(濃縮) ガスの除湿・加湿 燃料電池等の電解質膜・電極用アイオノマー

※ 一部フッ素を原料としない製品を含む

■ガス・溶剤事業 主要取り扱い製品

一般名「製品名」	製品用途
塩素系溶剤	フロン原料、金属洗浄用溶剤、ドライクリーニング用溶剤、シリコン樹脂溶媒、界面活性剤などの溶媒、塗料剥離剤など
フッ素系溶剤「アサヒクリン®」	精密部品洗浄、フラックス洗浄、樹脂洗浄、水切り洗浄、乾燥用途、ブライン用途、溶媒用途
次世代低GWP溶剤「AMOLEA® ATシリーズ」 「AMOLEA® ASシリーズ」	金属洗浄用溶剤、シリコン樹脂溶媒、精密部品洗浄、フラックス洗浄など
次世代低GWP冷媒「AMOLEA® 1224yd」 「AMOLEA® 1234yf」	冷凍・空調用冷媒、自動車用冷媒など

■その他事業 主要取り扱い製品

一般名「製品名」	製品用途
ファインシリカ「RESIFA™」 「M.S.GEL」 「サンスフェア®」 「サンラブリー®」	クロマト用充填材、化粧品フィラー

■フッ素化学品事業 ピックアップ製品

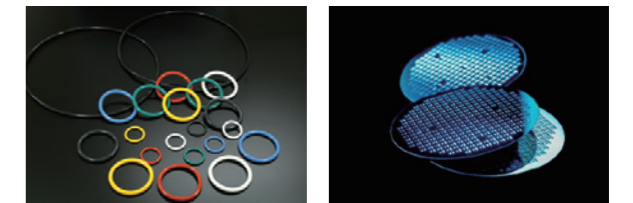
フッ素樹脂「Fluon® ETFE」、フッ素樹脂フィルム「アフレックス®」

Fluon® ETFEは、高い耐熱性や耐薬品性、電気的性質を保持しつつ、極めて容易な成形加工性を兼ね備えたバランスのとれたフッ素樹脂で、高性能な電線の被覆材をはじめとしたさまざまな産業用途に使用されています。またFluon® ETFEをフィルム化したアフレックス®は、スタジアム・空港等の外装や、エレクトロニクス用の離型フィルム等に用いられています。



フッ素ゴム「AFLAS® FFKM」

AFLAS® FFKMは、優れた耐薬品、耐熱、耐プラズマという特性を活かし、半導体装置内のシーリング材等に使用されています。半導体チップの急速な性能向上に伴い、高耐熱性、耐プラズマ性の要求水準が上がっており、FFKMの活躍の場は益々広がっています。



分離機能製品群「FORBLUE™」ファミリー

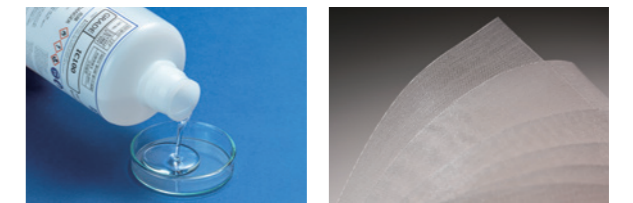
「FORBLUE™」は、化学物質の分離をテーマとしたソリューションを提供する製品群です。

各種電解向けフッ素系イオン交換膜「Sシリーズ」は、グリーン水素製造に適したPEM®型水電解向け隔膜にも利用され、水素製造装置の生産性向上・高耐久化に寄与します。

電解質フッ素ポリマー分散液「iシリーズ」は、燃料電池自動車や定置用燃料電池の電解質膜と電極に用いられます。

「FORBLUE™」を通じて、水素をつくる・つかうの両面から水素社会の実現に貢献していきます。

※ Proton Exchange Membrane: プロトン交換膜



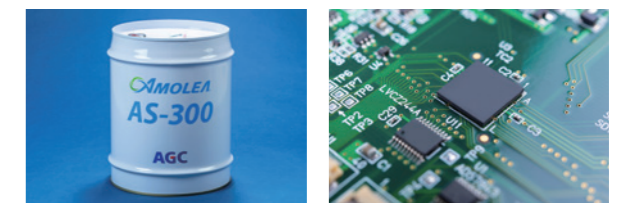
■ガス・溶剤事業

次世代低GWP溶剤「AMOLEA® AS-300」

次世代環境対応のフッ素系溶剤「AMOLEA® AS-300」は、GWP※が1未満で地球環境に優しく、また引火点がないため、消防法上の危険物や労働安全衛生法(有機則、特化則)に非該当で、幅広い溶解力と適度な揮発性(沸点54℃)を合わせ持ち、洗浄力に優れた製品です。

精密・金属部品の脱脂洗浄の他に、プリント基板のフラックス洗浄、シリコンオイルやフッ素グリスの希釈溶媒などに使用されています。

※ GWP: 地球温暖化係数



■その他事業

ファインシリカ「RESIFA™」

ファインシリカ製品は、独自の細孔制御技術を活かし、粒子形状や多孔質、無孔質、表面処理グレード等を取り揃え、多様なニーズに応えます。

マイクロプラスチックの代替品として、化粧品、塗料、包装フィルム、電子部品等に幅広く用いられ、環境負荷低減や様々な社会課題の解決に貢献し得る素材です。



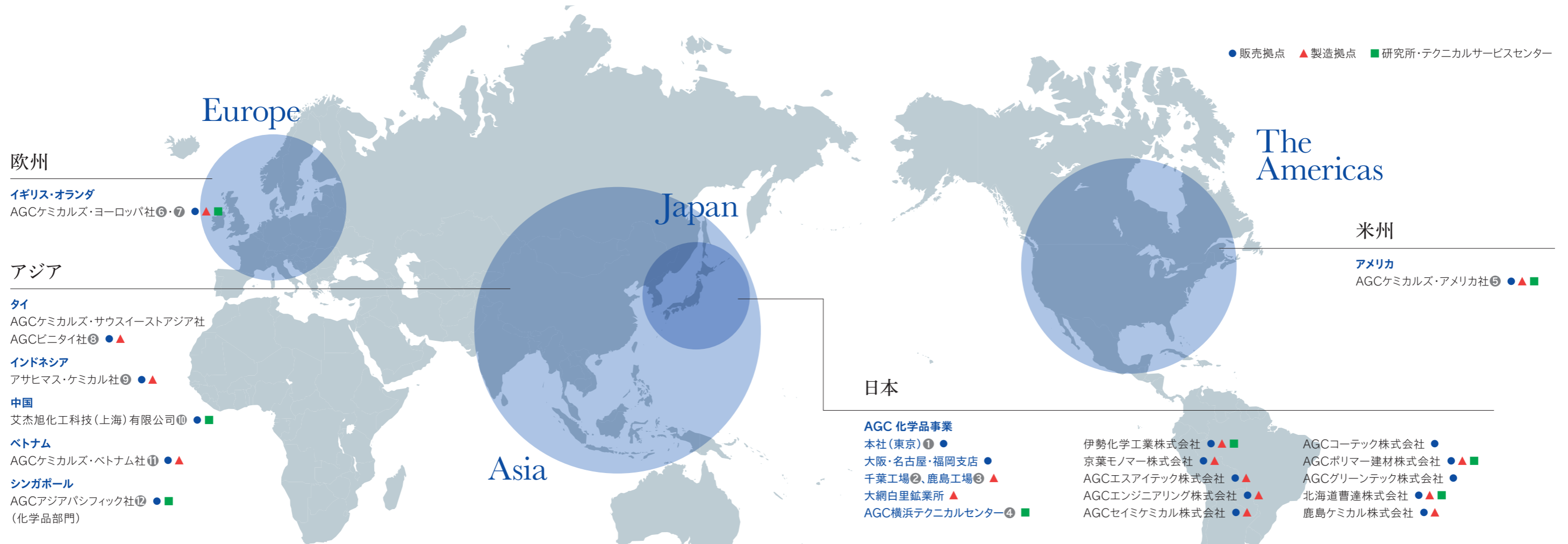
化学品カンパニーの概要 (2023年12月末現在)

会社情報

化学品カンパニー発足	1917年	営業利益	648億円
従業員数	約6,500名	グループ会社数	国内外20社
売上高	5,741億円	拠点展開	9カ国・地域

事業内容

- 苛性ソーダ
- 塩化ビニルおよび塩化ビニル原料
- ウレタン原料
- フッ素樹脂・フィルム
- 撥水撥油剤
- ヨウ素製品
- などの製造販売



AGC株式会社 化学品カンパニー

www.agc-chemicals.com

〒100-8405 東京都千代田区丸の内1-5-1

2024年6月発行